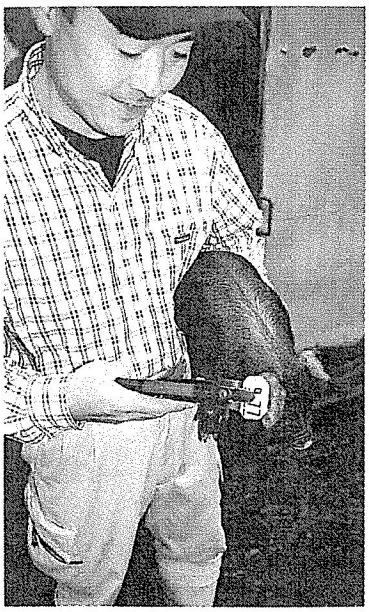
銘柄豚も生産履歴開示

東京育ち「TOKYO—X」

パソコン・携帯を活用 全販売店、来年から

東京生まれの高級銘柄豚「TOKYO—X」の生産組合と流通団体は二〇〇八年から携帯電話、パソコンで簡単に一頭ずつ生産履歴情報を確認できる仕組みを導入する。国産牛は国の制度として既に始まっているが、複数の生産者が関与する銘柄豚での導入は極めて珍しい。生産履歴開示により消費者の信頼感を高めて販売促進に結びつけるのが狙いだ。



子豚のうちに耳にタグを付けて個体管理する（東京都町田市）

十月二十九日から三越日本橋本店の精肉店、二幸で試験的に導入した。店頭には二次元バーコード（QRコード）のシールを掲示。客は携帯電話のカメラで認識するか、もしくは識別コードをパソコン用サイトに入力すれば生産履歴を確認できる。

携帯電話では生産地、生産者、母豚の数など経営規模までが分かる。パソコンではさらに出荷日、と畜日、加工処理日などが分かる上、離乳前、離乳後、子豚時、肥育時と四つに分けて飼料名、飼料会社まで掲載した。

消費者の関心の高い投薬歴についても感染症予防のワクチンなどをいつ投与したかを開示。携帯電話でもフリーダイヤルでパソコン同様の詳しい情報を得られる。二幸では「消費者に安心を提供できる材料になっている」と評価する。

同制度を導入した生産組合と、流通団体のTOKYO X—Association（植村光一郎会長）では三越日本橋本店での導入実績を踏まえて改善点などを議論し、来年からはすべての販売店に広げる。導入による販売店のコスト負担はない。

豚肉の生産履歴情報の開示は単独生産者の例などはあるが、「いつでもどこでも情報が得られるユビキタス技術を使った試みは初めて」（植村会長）と話す。飼料高を理由に十月から卸値を七%引き上げたばかり。消費者の信頼感を高めて販売増を目指す。

TOKYO—Xは一九九七年に東京都の畜産試験場（現・東京都農林水産振興財団）が開発した。今回のシステム構築にも都が補助金で支援した。

国産牛は3年先行

商品に番号 義務付け

国産牛肉は〇一年九月に国内初のBSE（牛海綿状脳症）が確認され、消費が急速に冷え込んだ。その反省から生産履歴開示の整備を急速に進めた。

すべての国産牛に十ケタの個体識別番号を付け、〇四年十二月からは店頭に並ぶ商品にも識別番号を表示するよう義務付けた。

消費者は携帯電話、パソコンから独立行政法人、家畜改良センターのホームページにアクセスし、識別番号を入力すれば生産履歴を確認できる仕組みだ。

バイヤー向け カナダ豚研修

輸出団体、来年度から

カナダの豚肉輸出振興団体、カナダポークインターナショナル（CPI）は二〇〇八年度より、日本国内で研修制度を始める。スーパーのバイヤーなどが対象となり、認知度を高めて販売数量増を目指す。カナダ通貨高などで将来、卸値が上昇する懸念もあり、需要の落ち込みを未然に防ぐ狙いもある。

研修は二日間かけて日本語でカナダでの飼育、処理工程や、日本で店頭に並べる際の肉のカット方法や品質維持のノウハウを教える。

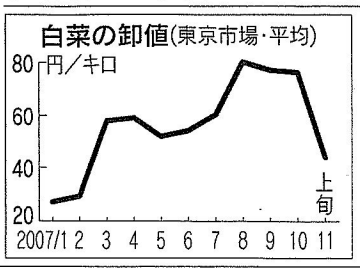
白菜卸値4割安

茨城産の入荷本格化

白菜の卸値が下がっている。東京都中央卸売市場の十一月上旬の平均卸値は一キロ四十四円。前月に比べて四割安い。主力の茨城産の入荷が本格化しているためだ。

全体の八割を占める茨城産の入荷量は三千六百二十四トン。暖冬で豊作となった前年同期と同程度だ。全農茨城県本部によると今年の出荷量は「平年（過去五年の平均）より多い見込み」で十一月から一月が出荷のピーク。

日中の気温が下がらず、鍋もの需要が本格化していないことも相場が軟調な一因だ。今後、気温が下がれば鍋もの需要が増えて「価格は上昇する」（卸売会社）との見方が強い。



主な業務用食

（先週金曜時点・円
〈コメ〉（卸間、玄米、1等
コシヒカリ（新潟、一般）
あきたこまち（秋田）
きらら397（北海道）
〈生鮮野菜〉（大田市場、相
キャベツ（千葉産、10キロ）
レタス（茨城産、10キロ）
大根（千葉産、10キロ）
トマト（熊本産、4キロ）
タマネギ（北海道産、20キロ）
〈輸入果実〉（仲卸、現金、
バナナ（フィリピン産、13
レモン（アリゾナ産、140
グレープフルーツ（フロリダ産
オレンジ（オーストラリア産

野菜産地と実需者交流会

独立行政法人、農畜産業振興機構と農林水産省は二十一日、「加工・業務用野菜産地と実需者の交流会」を開催する。会場は東京都立産業貿易センター・浜松町館（東京・港）。

加工・業務用野菜の国内生産者とバイヤーの情報交換など十二団体が参加して結成した。マグロの漁獲制限が予定されるなかで、料理人のアイデアに応じて適切な材料がスムーズに提供される。市の検討課題。将来は全国の飲食店などに広めていく予定だ。（伊藤敏克）

ジャパンバイオF

有機農業の「学校」

廃校使い1—2年研修

【札幌】農業資材の販売した研修施設を設立する。この開始を予定している。

鹿児島黒豚ハム増産

北九州市のエービーフーズシステム

研修施設の設置は富良野市が廃校の転用について、国に「地域再生計画」の一環として申請した。市は定住や過疎対策のほか、修学旅行生の体験学習などにも活用する考え。

市伊集院町に一億八千万円を投資して新工場を建設した。

鉄骨平屋建てで延べ床面積は三百四十三平方メートル。ハムやソーセージ・ベーコンの一日の生産能

に潜む企業遺伝子とは？ 11/ 11/ 全2日間